

平成30年度 学力向上アクションプラン

B票

武庫東小 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国調査の結果から見られる課題 <ul style="list-style-type: none"> (1) 各教科の状況(全国平均との比較) <ul style="list-style-type: none"> ・国語 A +2ポイント B +1ポイント ・算数 A +4ポイント B +4ポイント ・得点分布に二極化の傾向が見られる。 ・国語 複数場面の比較・考えをまとめること ・算数 表現する力・資料の整理分類・活用 (2) 質問紙調査 <ul style="list-style-type: none"> ・学習への関心・意欲が理解度と比較すると低い。 ・家庭学習が月～金で30分以下である児童の割合が全国よりも8ポイント高い。 ○ 児童の学習意欲や学習理解度について、個人差が大きい。 ○ 家庭における学習習慣が身についておらず、基礎学力に課題がある児童が多くいる。 ○ 若手教員の授業力の向上を計画的に進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「一人ひとりの自主化をめざして」を研究主題として、国語科を中心とした研究に取り組む。 研究を進めるにあたっては、大学教授を招聘し、専門的な見地からの指導・助言をしていただく。 【(1)講師招聘支援を活用】 ○ 全教員が年1回以上研究テーマに基づいた授業公開をするとともに、採用3年未満の教師はそれ以外に2回、10年未満の教員はそれ以外に1回授業公開をする。授業実践を通して全教員で授業力を高め合っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主に5・6年生において、指導補助員を配置し、同室複数指導により、学力向上を図る。 【(3)授業補助支援を活用】 ○ 3～6年生において、放課後学習を実施し、基礎基本・活用力の向上を図る。 【(4)放課後等学習支援を活用】 ○ サマースクール4日間の実施 【(4)放課後等学習支援を活用】 ○ ぐらしのカード(生活点検表)を作成し、家庭との連携を図る。 【(5)学力定着支援を活用】 ○ 朝読による読書力の向上、昼学による計算力・漢字力の向上に取り組む。 【(5)学力定着支援を活用】 ○ 先進校の資料等を教材作成の参考にする。 【(5)学力定着支援を活用】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各担任は学級経営案を作成し、指導の重点を明らかにして指導にあたる。 ○ 学力向上担当を設置し、3つの柱「基礎基本の定着」「授業改善」「職員研修」のもと、各種の取り組みを推進する。 ○ ICTの活用等、授業を創意工夫することで授業力向上・学力向上を図る。 ○ 各学年に応じた話す・聞くスキルを設定し、対話的な学びを促進する。 ○ 月1回 図書ボランティアによる読み聞かせやお話配達を実施することで、子ども達に本の魅力を実感させるとともに、読書への関心・意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力学習調査 <ul style="list-style-type: none"> (1) 学力調査 <ul style="list-style-type: none"> ・平均正解率(全国+5ポイント以上) (2) 質問紙調査 <ul style="list-style-type: none"> ・「授業がよくわかる/わかる」(90%以上) ・「平日1日あたりの家庭学習時間が30分以下」(13%以下) ○ 朝、昼の学習タイムの徹底 ○ 「学習の約束5項目」を設定し、全学年・全学級で徹底していく。 ○ 各学年に応じて宿題の量を統一し、徹底していく。

校種間連携
<ul style="list-style-type: none"> ○ 一昨年度から実施している中学校区で共通した「学習のきまり」を徹底していく。 ○ 兵庫型教科担任制を活用し、中学校への円滑な接続、及び個に応じた多様な教育を推進する。 ○ 中学校と連携し、外国語活動・英語を中心に指導の円滑な接続をより具体的に進める。 ○ クラブ体験や、生徒会訪問による挨拶運動 ○ 出前授業や異校種交流研修等を通じて教員の授業交流を行う。 ○ 入学前テストを中学校で実施する。 ○ キャリアノートを中学校へ引継ぐ。

活用する支援内容	
支援内容	具体的内容
(1)講師招聘支援	○ 国語科を中心とした自ら学ぶ授業づくり(京都教育大学 植山教授他 計4回)
(3)授業補助支援	○ 5・6年の国語・算数を中心とした授業補助支援 6h×25週×1人
(4)放課後等学習支援	○ 放課後学習 4h×25週×1人 ○ 夏季休業期間 2h×5日×2人
(5)学力定着支援	○ 「ぐらしのカード」作成 ○ 学習支援に係る用紙・インク代 ○ 学習支援に係る書籍代 ○ 先進校各研究大会への参加

家庭・地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度から「うち読週間」を毎学期実施し、貸し出し冊数の増加と読書力のより一層の向上をはかる。 ○ 「ぐらしのカード」(生活点検表)の活用による学習習慣の定着を徹底する。 ○ 学力調査結果の公表 ○ オープンスクールの実施 ○ 学校支援ボランティアとの連携 ○ 年2回の保護者アンケートの実施と学校評価の結果公表 ○ 学校通信を地域へ配布・HP上で公開 ○ 育友会と学校との連携の強化